

野々市にデジタル美術館を 第2回



野々市発信のアート作品と復興展示含む未来型没入体験を

松林 賢司(金沢工業大学教授・松林研究室)

第2回は学びの杜ののいちカレードで開催することとなり、前回から「よりパワーアップ」した内容で、長谷川章、バンクシー、岡本太郎、葛飾北斎等、国際的な作品に加え、野々市市民や小中学校・高校生の作品も展示に加えます。会場全体を上下左右360度のプロジェクションマッピングを用いた「イマーシブ(没入感)」システムとし、能登半島地震の震災復興に関するメッセージやドキュメンタリーインストールも実施します。この企画を「ののいち22世紀デジタル美術館」と名付け、先端技術が集積する野々市から未来型の美術館を発信することで、世界中からの観光客に金沢(21世紀)だけでなく野々市(22世紀)も認識してもらおうという、将来的なビジョンの実現を目指しています。



目をあけて夢を見る、世界初の異次元体験で若者が何かを掴む

長谷川 章(国際デジタルアーティスト)

既存の「箱」(図書館)をどう生かすかという構想のもと、デジタル掛軸を世界中に500箇所掛けてきた自身のキャリアと経験を活かし、世界に一つもない、世界で初めてのものを野々市から発信することに注力します。具体的には、会場内にポカッと「真っ暗なスペース」を作り出し、訪問者に異次元に入ったような驚きと没入感を体験してもらいます。来場者の中心である子供たちや若い人たちが、この最先端のデジタルアートに触れることで、何かを掴み、それを実現するきっかけとなってくれることを期待しています。



運営経験を活かし技術とアートで地域を賑わせたい

宮前 光希(金沢工業大学・松林研究室4年)

今年3月に開催した第1回では来場者の約80%からもう一度来場したいとの回答を頂き大成功でした。学生リーダーとして、経験を活かし今回も頑張りたいと考えています。長谷川先生の技術やバンクシー、岡本太郎といった作品を通して、物事を賑わせるためにはどうすべきかというイベントプロモーションとマーケティングの学問的な研究を深めています。この美術館を通じ、若い人々に美術の良さを伝えて楽しんでもらいたいです。



野々市独自の先端技術で未来型22世紀美術館の定着を望む

越村 えり(タレント)

金沢の「21世紀美術館」に対する野々市の「22世紀美術館」というネーミングには、伝統と未来(先端技術)の両方を世界中の観光客に体験してもらおう夢が込められているのですね。図書館という空間が短期間で真っ暗な異次元の美術館に変わるというギャップが魅力的であり、伝統工芸に慣れ親しんだ石川県の人々が最先端のデジタルアートに触れることで、新たな刺激と感動を得ることを期待しています。

ののいち22世紀デジタル美術館創設推進プロジェクトメンバーのプロフィール



デジタル芸術監修

国際デジタルアーティスト 長谷川 章(小松市出身)

過去数千本のテレビコマーシャル、大河ドラマやニュースタイトル、オリンピックタイトルの企画制作を担当。中国中央電視台(CCTV)のロゴマークは同氏の作品。NHKのアートディレクター、デジタルコンテンツ制作会社顧問等を歴任。独立してデジタル掛け軸(D-K)を製作発表。プロジェクションマッピングの創始者となった。D-Kをインストールした場所は、バルテノン神殿などの世界遺産をはじめ、ノーベル賞の晩餐会、ザルツブルグ世界音楽祭、サンノゼZEO ONE SANJOSE ART FESTIVAL、デンバービエンナーレ2019など全世界にわたる。国内では伊勢神宮遷宮返還式、都庁舎、名城20ヶ所、神社仏閣など、これまでに450ヶ所にインストールしてきた。2006年にはアメリカベストアーティストに選出されている。



プロデューサー

金沢工業大学・松林研究室 松林 賢司 教授 Ph.D./MBA(野々市市出身)

博士(工学):大阪大学工学研究科・博士課程修了。MBA:マサチューセッツ工科大学(MIT)スローン経営大学院・清華大学経済管理学院・修士課程修了。三菱商事にて国際貿易、新規事業開発、環境エネルギー・インフラビジネスに従事。国内外の三菱商事グループ会社の経営者などを経て、2014年から金沢工業大学 経営情報学科 教授。産業技術総合研究所顧問、白山市総合戦略会議議長、加賀市貿易推進委員会委員長、ゼロカーボンシティののいち推進パートナー。「金沢・堅町colorload 2017&2018」、「金沢・鼓門Mimassi」、「珠州・空海が見つけた見附島I&II」、「野々市・光とドローンダンスのデジタルファンタジー〜AIのつてによる野々市名所大冒険!〜」などプロジェクションやドローン、AI等のデジタルテクノロジーを駆使した地方創生イベントを多数プロデュース。



学生企画・運営リーダー

金沢工業大学・松林研究室4年
宮前 光希

出身は福井県敦賀市、野々市には都会的な魅力を感じる。デジタル美術館を創設することで、さらに特徴的なまちづくりを目指す。



タレント

越村 えり

MROラジオ「ノコトラジオ」、MRO「越村えりの笑直生活」、石川テレビ「越村えりのおしゃべりシネマ!」を担当。地元根拠情報発信するローカルタレントとして活躍中。趣味は美術館巡り。

デジタル美術館の創設を目指して 実証イベントを開催

ののいちカレードにて開催決定!

COMING-SOON

第2回 ののいち22世紀デジタル美術館

～未来型美術館の実証試験～

2026

1/31(土)-2/8(日) 9:00-22:00 会場:学びの杜ののいちカレード

入場
無料

ののいち22世紀
デジタル美術館

②



長谷川章、バンクシー、
岡本太郎、葛飾北斎等の作品が
野々市にやってくる。

プロジェクション&ドローンによる、
Society5.0時代のイマーシブ(没入感がある)な
デジタル美術館の体感イベント

主催・お問い合わせ先:金沢工業大学・松林研究室
Tel.090-5445-2023(担当:松林)

第1回の紹介動画



協賛:さくらホーム、日本エージェンシー、北菱電興、塩谷建設

後援:野々市市、野々市市教育委員会、学びの杜ののいちカレード、金沢工業大学